

AIを活用した分析でインサイトと アジリティを獲得



「変化こそ不変」と言ったのは、ギリシャの哲学者であるヘラクレitusでした。企業は、刻々と変化するビジネス環境に直面し、経済の不確実性、サプライチェーンの混乱、売上の変動など、さまざまな問題に対処しようと努力しています。こうした変化に先立ち、ビジネスにおけるポジティブな変革を推進できる企業こそが、自社のポジションを再定義し、社内外で勝利を収めることができるのです。

ビジネスを変革する企業は、イノベーションを絶えず起こすことで成長しています。その中でテクノロジーは、より深い分析やインサイトを提供するという観点で、重要な役割を担っています。

どの企業も、顧客や製品、その他の外部要因によって生まれる、さまざまなデータを処理しています。そしてその量は膨大であり、増加の一途を辿っています。またこうしたデータに対して、経営層から現場の従業員に至るまで、幅広い層から寄せられる質問に答えるためには、革新的な分析が必要なのです。



需要の急増に対応するために人員を増やした場合、財務にどのような影響があるのか？



サプライチェーンの混乱による後れを取り戻すために出荷を迅速化することは、コスト的に見て妥当なのか？



人手不足は、売上やキャッシュフロー、従業員のモラルにどのような影響を与えたか？



顧客のニーズを満たしながらコストを抑えるために、最も効率的な方法で在庫管理を行っているか？



予想される売掛金の回収リスクは？また、それがキャッシュフローに与える影響は？



自社の計画が環境や社会にもたらす利益や影響は？



ビジネス・パフォーマンスを全体的に把握できないことのリスク

ビジネス・プロセスは部門間にまたがっているため、業務部門全体でタイムリーかつ正確な情報を得ることは困難です。業務を包括的かつ統合的に把握できないと、企業には次のようなリスクが発生します。

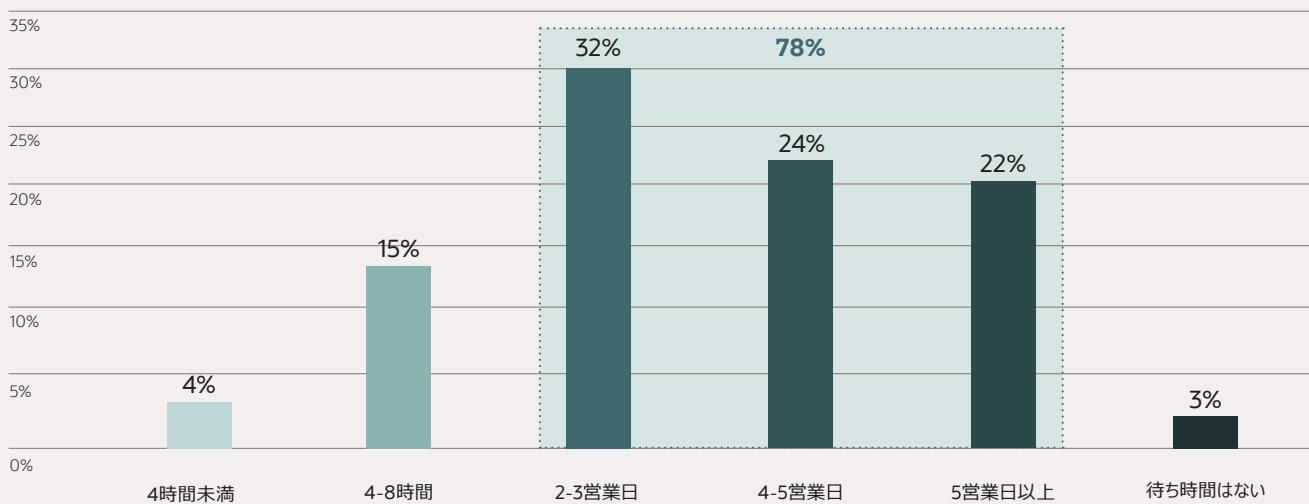
- ✖ ビジネス・パフォーマンスを断片的にしか把握できないことで、**最適ではないビジネス上の意思決定**がなされる
- ✖ **共通言語の欠如**と評価プロセスの欠如により、生産性が低下し、業績に影響を与える
- ✖ 複数の分野で重複するソフトウェア・ツールを使い、二重のレポートや分析を行うことで、**業務コストが増加する**
- ✖ 面倒でエラーが発生しやすい手動のデータ操作で**生産性が低下する**
- ✖ 業績やトレンドに関するインサイトが不足することで、**戦略方針がまとまらない**



部門横断的なビジネス・アナリティクスの導入が難しい理由

それは、ビジネス・リーダーが以下のリスクを知っているからです。最近の調査によると、回答者の93%が「他部門から正確なデータ入手するのは難しい」と回答しています。また、回答者の75%以上が、「他部門から必要なデータを受領するのに、最低でも2営業日はかかる」と回答しています。

他部門からデータを受領するのにかかる待ち時間の平均



データ受領にかかる時間。出典: Dimensional Research, 2022

また、[Harvard Business Review の調査](#)によると、回答者の86%が、データ・サイロが原因で情報が不足し、CFOやCHRO、CIOが人材に関する適切な意思決定ができていないと回答しています。

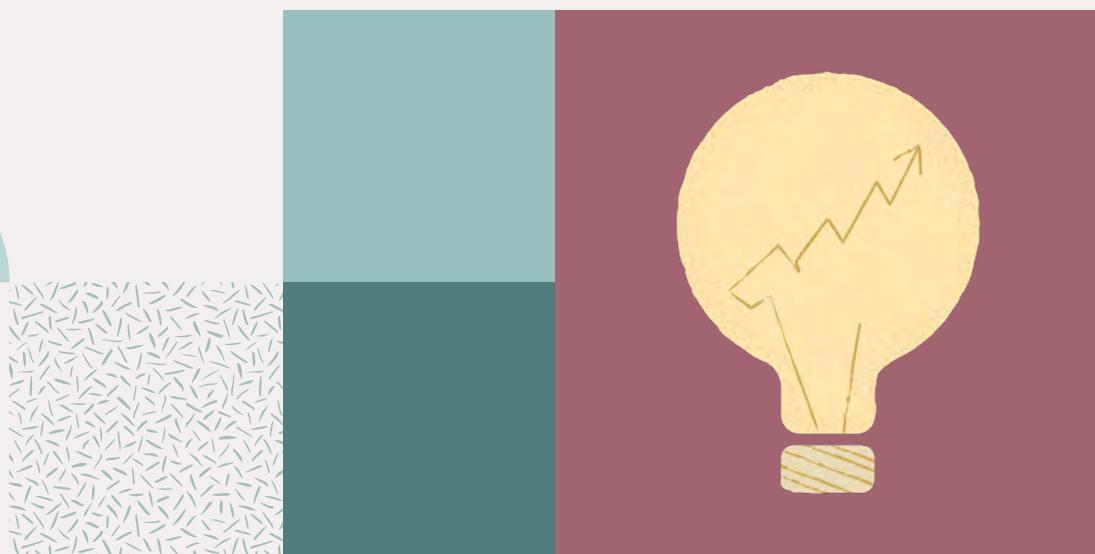
特定の部門に閉じた形で利用されているアプリケーションに存在する膨大なデータは、本来、他部門のデータと組み合わせることで有益なインサイトを得ることができます。しかし、こうしたシステムのサイロ化は、データの重複、エラー、手作業、プロセスの遅延を招いています。こうしたケースにおけるデータ分析というのは、往々にして表計算ソフトを使って行われます。しかし表計算ソフトの場合、バージョン管理や共同作業の容易さ、拡張性などの観点で、不十分な点が多くあります。また表計算ソフトでは計算ミスやセキュリティ・リスクがあり、コーポレート・ガバナンスのガイドラインを満たしていないことも少なくありません。

[部門横断的な分析の重要性について学ぶ](#)

部門横断的なビジネス・アナリティクスのベストプラクティス

こうした障壁に対して必要とされるのは分析フレームワークです。これにより、組織の壁とテクノロジーの制約を打破します。そのためには、エンタープライズ・リソース・プランニング (ERP)、人材管理 (HCM)、サプライチェーン・マネジメント (SCM)、カスタマー・エクスペリエンス (CX)、その他関連するソースからのデータを統合できる、クラウドベースのプラットフォームが必要です。このプラットフォームは、ビジネス・パフォーマンスに関する単一かつ共通の「窓」を提供してくれるため、だれもがそれにアクセスし意思決定に役立てることができます。ビジネス全体を正確に把握するには、次のこと役立つ分析を導入する必要があります。

- ✓ 適切なデータ・セキュリティ・ポリシーに基づき、ビジネスの複数の分野からのデータを組み合わせることで、データ・サイロを解消できる
- ✓ 協力的かつ分析主導の意思決定文化を醸成できる
- ✓ 業務プロセス全体のデータの取り込みができる
- ✓ データへのアクセスを民主化し、ロールベースのガバナンスを実装できる
- ✓ 部門を横断して経営層のサポートを得られる
- ✓ 誰もが分析ツールにアクセスできる



オラクルが支援できること

Oracle Cloud Applications (ERP、HCM、SCM、CX) 向けのクラウドネイティブ分析アプリケーションのファミリである Oracle Fusion Analyticsは、ビジネスのあらゆる部分が企業の目標や戦略にどのように影響するかを理解できるようにすることで、ビジネスを統合します。

Oracle Fusion Analyticsを使用すると、以下のことが可能になります。

- ✓ ロールベースのダッシュボードで、すべての業績データを一箇所で確認できる
- ✓ すぐに使用できる2,500以上のKPIを使用して、ビジネスの全体像を把握できる
- ✓ 部門間の相関関係を簡単に把握できる
- ✓ 部門間のデータをつなげることで、ビジネス成果をより的確に予測して、リスクを軽減できる
- ✓ 各部門を横断するプロセス（受注から入金、調達から支払、従業員、サプライチェーンなど）の可視化を改善し、パフォーマンスを最適化する方法を見つけることができる
- ✓ 組織全体のコネクテッド・プランニングのための健全な基盤を実現できる
- ✓ 戰略を一致させ、部門間のコラボレーションを改善できる

Oracle Fusion Analyticsには、部門横断的にビジネスを正確かつ分かりやすく把握できる機能がすべて備わっています。



事前構築済みの機能でインサイトまでの時間を短縮

数か月ではなく数週間でデプロイできます。コーディングも不要で、迅速に実装することができます。分析ワークフロー全体のための事前構築済のコンポーネント（すぐに使えるKPIやダッシュボードから、単一のデータ・モデル、Oracle Fusion Cloud Applications用のパイプラインまで）が含まれています。



お客様のビジネスに合わせて拡張可能

サードパーティのソースからのデータ取り込みも容易に行うことができます。セルフサービス・ツールを使用すれば、カスタムのビジュアライゼーションやレポートを作成し、分析対象をオラクル以外のデータにも拡張できます。



ビジネスの全体像の把握が可能

Oracle Fusion Analyticsが持つ、單一で拡張可能な分析用データ・モデルによって、ビジネス機能全体のKPIとビジュアライゼーションを連携させることができます。



さまざまな目的に使える機械学習

データ・サイエンティストでなくても、インサイトを得ることができます。Oracle Fusion Analyticsは、特定のビジネス・プロセスに対してすぐに使用できる機械学習を提供します。



シンプルで直感的なユーザー・エクスペリエンス

ニーズに合わせてユーザー・エクスペリエンスをパーソナライズできます。自然言語を使用して質問したり、口語で回答を得たりできます。

はじめに

Oracle Analyticsを導入することで、部門を超えた全体像をタイムリーに把握することができます。財務、人事、営業、マーケティング、サプライチェーンの各リーダーが連携し、最高のビジネス・パフォーマンスとは何かを真に理解し、達成することができます。

Oracle Fusion Analyticsがイノベーションと競争力強化にどのように役立つかについての詳細は、[当社のWebサイトをご覧ください。](#)

さらに詳しく知りたい方向けの、ライブ・デモもご用意しています。

ライブ・デモのリクエスト



Copyright © 2023 Oracle、Java、MySQLおよびNetSuiteはオラクルおよびその関連会社の登録商標です。その他の社名、商品名等は各社の商標または登録商標である場合があります。このドキュメントは情報提供のみを目的としており、記載内容は予告なしに変更される場合があります。このドキュメントに誤りがないことの保証はいたしかねます。また、口頭で明示されたか法律で默示されたかを問わず、商品性もしくは特定の目的に対する適合性についての默示的な保証を含め、いかなる保証や条件も提供するものではありません。オラクルは、このドキュメントに関するいかなる法的責任も負わないものとし、直接的、間接的を問わず、本ドキュメントにより、いかなる契約上の義務も生じないものとします。このドキュメントは、オラクルによる事前の書面による承諾を得ることなく、目的の如何を問わず、電子的手段または印刷によるものも含めていかなる形式や手段によっても複製または送信できないものとします。